

名古屋市観光戦略(案) 概要

1 策定の趣旨

訪日外国人旅行者が急増し、観光及びMICEを取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、本市における交流人口の拡大や都市の活性化を推進していくための観光及びMICE施策の方向性を示すものとして、新たな観光戦略を策定します。

3 基本理念

世界中の人に行き交う交流都市・名古屋へ

名古屋城天守閣木造復元、第2回アジア競技大会開催、リニア中央新幹線開業をチャンスと捉え、オール名古屋で本市の観光を飛躍させます

5 施策と具体的な取組

施策1

大交流時代に向けた 受入環境の整備

- ① 観光案内の充実
 - ◇ 観光案内の機能強化
 - ◇ 多言語翻訳の充実及び多言語ドランティア人材の育成
 - ◇ 災害時の情報提供
- ② 交通インフラの充実
 - ◆ なごや観光ルートバス「メーラー」の利用促進
 - ◆ 新たな路面公共交通システム等の導入検討
 - ◆ 水上交通の推進及び水辺の魅力的創出
 - ◇ 名古屋駅のスバーターミナル化
 - ◇ 中部国際空港の完全24時間化の実現
 - ◇ 空港機能を発揮するためのアクセス機能の強化検討
- ③ ストレスなく観光を満喫できる環境の整備
 - ◆ 観光客のための通信環境の整備
 - ◆ 観光客が安心して快適に過ごせる環境づくり
 - ◇ トイレの洋式化及び機能向上
 - ◇ キャッシュレス環境の整備
 - ◇ 多様な観光客の受入環境の充実
- ④ 市バス・地下鉄における利便性向上
 - ◇ 地下鉄一日乗車券の24時間券化
 - ◇ 観光客向けの券売機の導入
 - ◇ 券売機等の多言語化及びわかりやすい案内
- ⑤ 宿泊施設の機能向上
 - ◇ ラグジュアリーホテル誘致
- ⑥ 地域の担い手育成・支援
 - ◇ 地域の観光団体等の担い手育成・支援による受入体制の強化

施策2

名古屋城をはじめとした 歴史観光の推進

～歴史文化・武家文化がいきづく名古屋～

- ① 名古屋城の魅力向上
 - ◇ 特別史跡名古屋城跡の整備
 - ◇ 天守閣の木造復元
 - ◇ 金シャチ横丁の第二期整備の推進
 - ◇ 天守閣閉館中の魅力向上事業
- ② 名古屋城を核とする歴史・文化魅力軸のプロモーション
 - ◆ 歴史・文化魅力軸の歴史観光
 - ◆ コンテンツの魅力発信
 - ◆ 熱田地区の魅力向上
- ③ 武将観光の推進
 - ◆ 世界的に認知度の高い武将を活用した観光推進
 - ◇ 人生大逆転街道「信長攻路」・人生大出世夢街道「太閤秀吉功路」の整備・活用
 - ◇ 有松・桶狭間・大高地区の魅力向上
- ④ 歴史的資源の魅力発信
 - ◆ 「文化のみち」の魅力向上
 - ◇ 歴史の里 しだみ古墳群の魅力発信
 - ◇ 歴史的町並み等を活用した魅力向上

4 施策の方向性

1 誰もが観光を満喫できる 受入環境の整備

名古屋城木造復元、第2回アジア競技大会開催、リニア中央新幹線開業を見据えた快適な環境の整備をハード・ソフト両面から進めていく

2 計画期間

概ね10年先の将来を見据えた2019(平成31)年度から2023(平成35)年度までの5年間

2 観光コンテンツの 創造・発掘・磨き上げ

名古屋の観光コンテンツを3つのストーリーで繋げ、魅力を磨き上げる

3 戦略的な プロモーション・PR

本市ならではの「魅力・強み」を活かしたプロモーションをターゲットごとにわかりやすく伝わるように実施する

4 MICEの推進

高い経済効果が期待されるMICEの誘致について着実に進めていく

MICE編

近年その重要性が認知され、他都市との都市間競争が激しくなっているMICEについては、「MICE編」として、策定します。

施策1
誘致・プロモーションの展開

施策2
MICE誘致・開催に関する支援の充実

施策3
MICEに関わる人材の育成

施策4
MICEを活用した地域産業の活性化

施策5
MICE施設の改修及び拡充・機能強化

6 目標値

■観光総消費額

3,580億円⇒6,000億円(2023年)
(2017年の1.7倍)

■延べ観光入込客数

6,863万人⇒1億人(2023年)
(実人数)4,575万人⇒7,000万人(2023年)
(2017年の1.5倍)

■延べ宿泊客数

868万人⇒1,300万人(2023年)
(2017年の1.5倍)

■外国人延べ宿泊者数

157万人⇒ 370万人(2023年)
(2017年の2.4倍)

■観光客の満足度

78.2%⇒ 90.0%(2023年)

※現状値については、2017年度の数値

MICE編(案) 概要

施策の方向性

1 ターゲットを明確化したプロモーション

ものづくり企業や理工系大学の集積に呼応した学会等の開催が比較的多い当地域のポテンシャルを活かし、他都市との差別化を更に進める
実態が把握できていないM・Iの情報収集を行い、その活用を図る。

2 MICEを活用した産業の活性化

MICEの効果を地域産業により確実に波及させるため、MICE関連人材の育成や関連産業の活性化といった取組みが必要

3 多様化する国際会議や増加する展示会需要への対応

拡大し多様化するMICE活動に対応し、激化する都市間競争に打ち勝つために必要なMICE基本インフラが老朽化しており、今後要求される水準に対応するため、MICE施設の拡充・機能強化が必要

- ◆…実施中・継続事項
- ◇…新規・拡充事項

施策と具体的な取組

施策1 誘致・プロモーションの展開

- ①MICE情報の把握・活用
 - ◇MICE情報の把握(MICEイベント・関係するキーパーソン情報把握、MIの実態調査)
 - ◇MICEマーケティング調査(主催者への動向調査等)
- ②プロモーションの強化
 - ◆国際会議や展示会等の主催団体や国内外キーパーソンへの働きかけ、セールスの実施
 - ◆国内外のMICE見本市への出展・PR
 - ◇企業・学術集積エリアとしてのプロモーション・ブランド化
 - ◇プロモーションツールの作成・活用
 - ◇MICE誘客のコンテンツとしての大規模スポーツイベントにかかるプロモーションに必要な情報収集・支援手法の検討

施策2 MICE誘致・開催に関する支援の充実

- ①MICE支援制度の充実
 - ◆MICE助成制度の運用(H29年度に拡充)
 - ◇MICE助成制度の利用促進、制度の見直し
 - ◇MICE開催支援メニューの充実
 - ◇MICEに関するワンストップ窓口
- ②ユニークベニューの活用
 - ◇ユニークベニューの把握・発掘・活用

施策3 MICEに関わる人材の育成

- ①組織の強化
 - ◆MICE推進室の立ち上げ(H28年度)
 - ◆ビューローMICE部門を改組(H29年度)
 - ◇組織体制の強化(地域ネットワーク及び国との情報共有体制の強化等)
- ②人材育成
 - ◇セミナー等を活用した関連産業の人材育成
 - ◇市民参加型MICEの開催

施策4 MICEを活用した地域産業の活性化

- ①MICE開催活動の促進
 - ◆会議場・展示場の運営における民間ノウハウの導入
 - ◇MICE開催を契機とした地域産業の国内外へのPRやインセンティブ旅行の促進等、MICEを活用したビジネス機会のさらなる創出
 - ◇MICE施設を活用した新たなコンテンツの開催・誘致の促進
- ②観光産業とMICEの連携
 - ◆MICE施設にかかるステークホルダーとの連携
 - ◇MICE施設と観光施設との連携
 - ◇インセンティブ旅行の受入先企業拡大
 - ◇ナイトタイムエコノミーを活用したMICE参加者の観光消費促進

施策5 MICE施設の改修及び拡充・機能強化

- ①MICE基幹施設の改修及び拡充・機能強化
 - ◆国際会議場・国際展示場の効果的な運営
 - ◇都市間競争に打ち勝つために必要な規模・機能を備えた施設の拡充整備
 - ◇施設の利用促進に資する助成制度の整備拡充
- ②MICE周辺施設の整備
 - ◇周辺環境の整備(施設と公共交通機関の接続性等、利便性の向上)
 - ◇宿泊施設の機能向上(ラグジュアリーホテル誘致の支援)

目標

■国際会議の開催件数
188件⇒263件(2023年)

■国際展示場・国際会議場利用者数
2,693,000人⇒3,406,000人(2023年)

■国際展示場(全展示施設)・国際会議場(主要3ホール)の平均利用率
国際展示場50.2%⇒70%(2023年) 国際会議場80.8%⇒85%(2023年)

MICE編
コンセプト

Nagoya, Endless Innovation 名古屋～終わりなきイノベーション～
MICEデスティネーションとして選ばれる、ビジネスにイノベーションをもたらし続ける都市・名古屋へ

<名古屋観光コンベンションビューローを核に様々なMICE施策を推進>
■地域の強みである、世界有数の企業や大学の集積をMICE開催機会の拡大に活用
■MICEによる地域への経済波及効果を高める
■都市間競争に打ち勝つためのMICEインフラの拡充と活用強化